



新春の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。本年も月ごとの最新トピックスをお届けします。

国内動向▶▶▶▶▶

① 申出物質の一覧表 (csv形式)、molFileCheckツールを更新 (経済産業省)

化審法少量新規化学物質の申出物質の一覧表の様式と構造式ファイルのエラーチェックツールが更新された。申出物質の一覧表と構造式ファイルは書面による申請の場合のみ提出が求められる。

[もっと詳しく☞](#) [経済産業省 \(少量新規化学物質の申出\)
\(molFileCheckツールについて\)](#)

② 化学物質の環境リスク初期評価 (第18次取りまとめ) の結果を公表 (環境省)

化学物質の健康・生態リスクを評価した環境リスク初期評価の第18次取りまとめの結果が公表され、対象16物質のうち、抗生物質スルファメトキサゾールが生態リスク初期評価で「詳細な評価を行う候補」となった。健康リスク初期評価で「詳細な評価を行う候補」となる物質はなかった。

[もっと詳しく☞](#) [環境省 \(報道発表資料 | 化学物質の環境リスク初期評価 \(第18次取りまとめ\) の結果について\)](#)

③ 変異原性が認められた化学物質に関する取り扱い指針と情報一覧を公表 (厚生労働省)

労働安全衛生法に基づき公表された新規化学物質のうち28物質で強度変異原性が認められたことから、これらの物質に関する取り扱い指針とその情報一覧が公表された。

[もっと詳しく☞](#) [厚生労働省 \(基発1122第9号 変異原性が認められた化学物質の取扱いについて\)
\(基安化発1122第2号 変異原性が認められた化学物質に関する情報について\)](#)

海外動向▶▶▶▶▶

① 電子ディスプレイへのハロゲン化難燃剤の使用を禁止 (EU)

欧州委員会は、EUエコデザイン指令に基づき電子ディスプレイへのハロゲン化難燃剤の禁止を採択した。2021年3月1日以降、電子ディスプレイのエンクロージャー及びスタンドでの使用が禁止される。

[もっと詳しく☞](#) [EU \(Official Journal of the European Union, volume 62, 5 December 2019\) \(PDF\)](#)

② フタル酸エステル類5物質のTDIを設定 (EFSA)

欧州食品安全局 (EFSA) はフタル酸エステル類5物質について2005年に行われたリスク評価を更新し、耐容一日摂取量 (TDI) を見直した。生殖系への影響に基づき、フタル酸ジブチル (DBP)、フタル酸ブチルベンジル (BBP)、フタル酸ビス(2-エチルヘキシル) (DEHP) 及びフタル酸ジイソノニル (DINP) は新たにグループTDIとして50 µg/kg bw/dayが設定された。フタル酸ジイソデシル (DIDP) については肝臓への影響に基づく個別TDIとして従来と同じ150 µg/kg bw/dayが設定された。

[もっと詳しく☞](#) [EFSA \(Update of the risk assessment of DBP, BBP, DEHP, DINP and DIDP\)
\(FAQ: phthalates in plastic food contact materials\)](#)

③ TSCAのリスク評価で次回対象とする20物質を最終決定 (米国EPA)

米国EPAはTSCAの下で次にリスク評価の対象とする20物質を最終決定した。20物質には、有機塩素系溶媒7種、フタル酸エステル6種、難燃剤4種、ホルムアルデヒド、香料添加剤及びポリマー前駆体が含まれる。

[もっと詳しく☞](#) [EPA \(EPA Finalizes List of Next 20 Chemicals to Undergo Risk Evaluation under TSCA\)](#)

④ 2019年工業化学品法の新スキームガイダンスページを開設 (NICNAS)

オーストラリア工業化学物質届出審査機構 (NICNAS) は、2020年7月1日施行の2019年工業化学品法 (IC法) の下で適用されるオーストラリア工業化学品導入スキーム (AICIS) の各種ガイダンスを集約したウェブページを開設した。

[もっと詳しく☞](#) [NICNAS \(Guidance on the new scheme AICIS\)](#)

特集：職業ばく露限界値 ①

今月号から各国の職業ばく露限界値 (OEL; Occupational Exposure Limit) について、3 回に分けてご紹介いたします。

OEL とは、労働者の健康へ悪影響を及ぼすことのないと考えられるばく露限界値のことで、動物試験による物質の有害性情報等から、ヒト（労働者）へ外挿するための係数を考慮したものです。OEL は、作業環境濃度と比較することにより、労働者の健康リスク評価、労働環境の管理や改善のために利用されます。

今回は日本産業衛生学会の許容濃度と米国産業衛生専門家会議 (ACGIH; American Conference of Governmental Industrial Hygienists) が設定している OEL についてご紹介いたします。

① 日本産業衛生学会の許容濃度

日本産業衛生学会が設定する OEL には、許容濃度及び最大許容濃度の 2 つがあります。許容濃度とは、労働者が 1 日 8 時間、週 40 時間程度有害物質にばく露される場合に、平均ばく露濃度がこの数値以下であれば、ほとんど全ての労働者の健康へ悪影響を及ぼさないと判断される濃度と定義されています。また、最大許容濃度とは、作業中のどの時間でもばく露濃度がこの数値以下であれば、健康上の悪影響を及ぼさないと判断される濃度（天井値）と定義されています。許容濃度の詳細については年に 1 回更新され、日本産業衛生学雑誌またはホームページから閲覧が可能です。

② 米国産業衛生専門家会議 (ACGIH)

ACGIH が設定する OEL は許容限界値 (TLV; Threshold Limit Values) と呼ばれ、ほとんど全ての作業者が毎日繰り返しばく露されても有害な健康影響が現れないと考えられる、化学物質の気中濃度と定義されています。ACGIH の TLV には表 1 に示した 3 つのカテゴリーがあります。なお、ACGIH の TLV については、毎年 3～4 月頃に更新され、ACGIH から出版される書籍にて確認することができます。

表 1. ACGIH における TLV のカテゴリー

カテゴリー		説明
TLV-TWA (Time-Weighted Average)	時間加重平均許容濃度	1 日 8 時間、週 40 時間の労働で労働者に有害影響を及ぼさない平均濃度
TLV-C (Ceiling)	最大許容濃度	作業ばく露のいかなる場合においても超えてはならない濃度(天井値)
TLV-STEL (Short Term Exposure Limit)	短時間ばく露限度	1 日のどの 15 分間の時間加重平均もこの値を超えてはならない濃度

次号では、米国 (NIOSH、OSHA) における OEL についてご紹介いたします。

お知らせ

○講演「第266回ゴム技術シンポジウム ゴムおよびゴム製品の性能と衛生問題」

2月26日(水)に開催される(一社)日本ゴム協会研究部会 衛生問題研究分科会主催のシンポジウムで、本機構の片桐職員が製品中化学物質のリスク評価について講演します。☞[プログラム \(PDF\)](#)



ご質問等ございましたら、以下の連絡先までお気軽にお問い合わせください。



一般財団法人 化学物質評価研究機構
Chemicals Evaluation and Research Institute, Japan

安全性評価技術研究所 評価事業部

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-4-25 日教販ビル 7F

Tel: 03-5804-6136 (担当: 石井 (聡)、田辺)

URL: <https://www.cerij.or.jp> E-mail: cac-reach@ceri.jp